



## 杉並区立松溪中学校同窓会ニュース

### § 1 第 28 回世話人会を開きました。

2025 年 12 月 14 日、松溪中 2F 多目的ルームで一年ぶりとなる第 28 回世話人会を開催しました。矢代捷さん、復活同窓会初代会長、はじめ出席者は 7 名、全員 2016 年同窓会復活総会“ホームカミングデー”から同窓会活動をささえている世話人のかたです。

本世話人会の目的は、今後の同窓会活動の維持運営方針を議論することでした。容赦なくすすむ世話人の高齢化のなかで、皆様の努力で復活した同窓会を次世代の同窓生に引き継ぐ方策を話し合いました。

従来通りインターネット通信網利用を同窓会活動の中心としながら、同窓会を魅力的な組織として活性化する努力をしてゆきます。具体的にはミニ世話人会を中心とした事務局より同窓生への情報発信をことといたしました。

幸いにして、福田由希さん（34 期）より同窓会提供情報でのご協力や新機軸開発の提案などをいただいております。出席者一同、大いに勇気づけられています。  
議事録など詳細はホームページをご覧ください。



## §2 第10期同期会が開催されました。



2025年3月6日、傘寿祝いの同期会、ちょっとばかり気温も緩くなってくれるかと思ってい然大間違い。でもみんな頑張って参加しました。便利なアクセス、リーズナブルな金額、そして満点とはいかないまでもそれなりのクオリティある食事や会場、なかなかありませんね。かつては荻窪の東信閣という切り札があったのですが……。喜寿の時は抽選で杉並会館がとれたのはラッキーだったかも。

卒業以来の友もチラリ。大阪や静岡からは毎回の常連。未曾有のコロナ禍を乗り越えた同期は体力食欲も半端ない48名。2時間は瞬く間に過ぎ、「次回は米寿だぞ！」って言ったら「来年もやれ！」だって。81歳の賀寿もあることはあるんですね。なんでも有りか。

前年に叙勲を受け（瑞宝中綬章）、報告すらいやがる女子同期生と数年前に叙勲を受け、同じく報告・祝意から逃げる男子同期生（旭日中綬章）と合わせてさりげなく報告しちゃいました。それにつけても浮かんでくるのは石川啄木。

「友がみなわれより偉く見ゆる日よ 花を買い来て妻とたしなむ」

会場は三鷹駅北口ど真ん前のカフェテラス。外は寒いですが、ステンドグラスを通した柔らかな日差しが満ち満ちたパーティーでした。

### §3 第9期同期会が開催されました。



2025年3月18日、荻窪南口の日本料理“源氏”で9期同窓会を開催しました。参加者35名、2011年以來の14年ぶり3回目です。昼食をとりながら、全員それぞれ自己紹介、お互い少年だった旧友の面影を追いながら、無事で再会できた幸せを喜びました。

今回の同期会は、今も固い結束を維持しているA組（藤井義孝先生）の皆さんが中心となり実現しました。また年齢を重ねてゆきますが再会を誓って散会しました。

## §4 森 義信さん（8期）

### つくづく亭日常 神も仏もありませぬ

#### つくづく亭日常 神も仏もありませぬ

リトグラフ画家であり、絵本、童話、エッセイの分野で活躍した佐野洋子さんの本「神も仏もありませぬ」ちくま文庫 という本を、リハビリに通っている城西病院の書棚で見つけた。

「神も仏も無いものか」なら知っている。それは神仏を信じている心から来た言葉であろう。ありませぬとは、何と申したらよいのであろう。神仏には頼らぬ覚悟をいうのであろうか。



読んでみる。

彼女は六十代半ばのば～さんになったのを自覚している。物忘れがひどくなる「あれ、あれ」「あの、あの」と日に五十回は言うようになる。飼っている猫も老衰して丸顔が四角になったのを眺め、自分も顔もそうなっているのを見つけ愕然とする「私もう顔が四角い。頬っぺたの肉は首の方へずり落ちている。

昔は不器量を確認したくなくて鏡を見なかった。今は原型の破壊を確かめたくてギョッと見る。あー、不器量がなんぼのものだったのだろう。知、知、知らない間に、いや知ってはいたが、こ、こん、こんなになっちゃうのか」生物の宿命は自然の営みであり、その様に宇宙は成り立っている「人が年取るのは何の不思議もないの」彼女は分かっているのである。それは誰でもわかっている。でも彼女は「ウツソー」

ペテンにかかったんじゃないか、と自然の営みに反旗を翻す。そして九十過ぎたら「もういいと思う」ものだと思えるのだが、九十七才の友達の母親が「洋子さん、私もう充分生きたわ、いつお迎えが来てもいい。でも今日でなくてもいいといったっけ」そういうものであろう。生への執着は人に与えられた神仏からの試練であろう。

彼女の猫は癌になり余命一週間を宣告され泰然と死の床につく。老いる猫を毎日見ていた彼女は「私はこの小さな畜生に劣る。この小さな生き物の、生き物の宿命である死をそのまま受け入れている目にひるんだ。その静寂さの前に恥じた。私だったらわめいてうめいて、その苦痛を呪うに違いなかった。私は猫のようにフツーに死にたいと思った」

フツーに死ぬ、それが出来れば、死を聞かされても「そうかね」とフツーの声で言える。それが佐野洋子さんの理想だった。彼女はこの本を書いた歳、乳がんの手術をうける。



余命二年を宣告されるも活動をやめなかった「今日でなくていい」「死ぬきまんまん」など好エッセイを書き続けた。

骨に転移した。大腿骨の痛みは死ぬほどだったが、其処からがすごい。ジャガーを乗り回し、外国にも行く。そして六年後七十二才でフツウに亡くなった。

神も仏もありませぬ 彼女にとりその言葉は「フツウ」と同義語だったようだ。

読み終わって、「私には到底できないな、オロオロし、病を呪い、家族に当たり散らすだろうな」と自分の弱さを恥じるだけだった。

フツウに生きる。それは何か突き抜けるもの、覚悟、信念、そういったものを会得した人に与えられる栄光なのだ。

後で知ったのだが、佐野洋子は荻窪の住人だった時期があった。文章に「教会通り」とか「青梅街道」とか知っている地名がでてきて、もしかしたらすれ違ったかもしれない。

それと、この本がリハビリ室に置いてある訳も何となくわかった。  
リハビリの辛さとか、老い先の不安とかをぶっとばしてくれる「聖書」だった。

佐野洋子の絵本「100万回生きた猫」は1977年10月20日第1刷発行 2012年8月20日第105刷発行となった。

文章のおわりは白い用紙の真ん中にただ「ねこは もう、けっして 生きかえりませんでした」とあった。

2025. 12 荻窪にて  
森 義信



## §5 小林真人さん（10 期）房総半島を暴走する 妄想老人日記“

今年の春ごろ、JR 久留里線が廃線になるということを知りました。廃線ニュースは珍しくはなかったのですが、お隣の千葉県、そして久留里と言う地名に惹かれて地図帳や時刻表を調べてみました。木更津から房総半島の真ん中にある上総亀山まで 30 キロぐらいの路線です。

JR 東日本によりますと、木更津から久留里まではまあなんとか持ちこたえられそうだが、久留里から先、上総亀山までの 10 キロが経営できない、全国でも赤字路線ワーストワン。昨年秋には廃線が内定されちゃったみたいでした。



ほんとに大変なのか？ 反対運動の砦はあるのか？ そもそもクルリとは何かが狂っているのではないか、とまたもやアホなことを妄想し、史上最高の暑さになろうが、とりあえず廃線直前の久留里線と上総亀山駅界隈を調査することにしました。

8 月半ば、東京駅を朝 9 時に出発、蘇我駅乗り換えで木更津駅へ。木更津から終点上総亀山までの直通は早朝 2 本、午後 1 と夕方に各 1 本、そして午後 8 時に 1 本と合計 5 本しかありません。実はこの木更津駅、私にとっては思い出深い駅なのです。60 年前の 8 月、中学 3 年時のクラス会を 3 泊 4 日で内房の岩井で開いた時、集合に遅れて急ぎ乗った汽車は木更津駅止まり。駅のベンチで一夜を明かしました。駅舎には見知らぬ宿泊者が 2、3 人。朝、なんとなく挨拶しちゃったりして。

臨海に工業地域が発展する前に比べると、今、ホームから見える木更津の街は風情がありません。久留里線は気動車（ディーゼルカー）ワンマン 2 輦編成。お盆休みも過ぎた平日、乗客はロングシートにてきとうな間隔で座れる程度でした。しかし、この時期、この時間帯でも“鉄ちゃん”はいるのですね。いつの間に乗り込んだのか、カメラをもった中年男性が車内をせわしなく走り回り始めました。

自撮り。駅に着くと車内から自分と駅看板を入れ込みながらカシャ。車内を行ったり来たり、カシャ。扉の位置で外の景色が変わるからなのでしょうね。その度に座席確保のリュックも移動。路線が廃止される予定の久留里駅から先なら分からないでもないのですが、継承される駅間でもコマネズミのように走り回っていました。

1 時間弱で久留里駅着。乗客はかなり減りました。久留里には近世の山城や古来からの名水など観光資源もあるようです。車内、少しは静謐が保たれるかなと期待していたら、中年“鉄ちゃん”先頭車両にしぶとく残っていました。他にもバッグからいつの間にかカメラを取り出している“隠れ鉄ちゃん”を発

見。いるんですね、好きなおじさんが。

久留里から上総亀山まではおよそ 20 分。景観は急変したように感じました。秘境と言うと大げさですが沿線樹木の枝葉が茂り、電車をガサツ、ゴツ、パッキバキと叩き始めました。廃線を宣告されると、電車に少々傷がついても雑木伐採なんか金かけられないということなのでしょうね。昨年乗った静岡県得天竜浜名湖線でも結構顔をはたかれました。沿線の整備は大変、特に中小私鉄や親方から見放された JR 線は。浜名湖線の次に乗った近鉄関西線の環境はすっかり整っていました。近鉄は金持ち路線です。

上総亀山駅に着く直前に亀山ゴルフコースを宣伝する芝生込みのしゃれた看板を一瞬見たのですが、しゃれっ気はそこから 1 歩も出ず、顔面傷だらけの電車は静かに到着。土台だけの狭いホームに数名のおじさんが吐き出されました。鉄ちゃんはすぐ線路に降りて電車の前と後ろと下から自分を入れ込んでカシャ、カシャ。山小屋のような狭い駅舎内でもひたすらはしゃいでいました。



駅からちょっと離れたところに小さなトイレ、駅前には辛うじて店名が読める亀田屋酒店。閉店中で人の気配なし。その横に 1 階部を開放した無人のお休みどころ 1 店。地味な幟が 2 本、「なくすな！久留里線」。うーん、迫力に欠ける。下車した 10 数名の他、地元人間も猫も歩いている気配なし。熱風に吹かれて駅周辺をボーッと見ていたら、下車した人たちがいつの間にかみな視界から消えていました。観光地として少しは知られている亀山湖に行き飯を食おうと決めました。

しかし、駅前から三方向に道路があるのに「亀山湖へ〇〇〇m⇒」という標識がどこにもない。つまり鉄道で来る観光客はいないということなんですね。みんなに付いていけばよかった、ともかく勘を頼りにダムへの匂いを嗅いで歩きました。スマホで地図を利用するのが超下手。湖もドライブインも見えない。木陰の道端に停まっていた軽自動車内に人影を発見して道を教えてもらい、なんとか亀山湖とダムと食堂に到達。閉店 30 分前、ダム堰堤近くで定番のダムカレーにありつきました。

いました、あのコマネズミのように動く中年の鉄ちゃん。私のオーダーが通った時には早くもデザートのアイスクリームを注文していました。世の中、都会だろうが湖の近くだろうがピョンピョン機敏に動かないと生きていけないことを学びました。



◀ダムを観光地化しているところの食堂には必ずあるダムカレー。子供が喜ぶメニューなので大人はそんなに美味しいカレーじゃないと決めている。ライスで固めた堰堤の幅と高さがポイント。幅が広いとカレーが少なく、高さが高くとカレーの圧に負けてすぐにダムが崩壊し、子供は悲しむ。亀山湖カレーはまあまあか。アツアツの鶏唐揚げが堰堤を補強していた。しかし、当日は猛暑日。冷や麦にしとけばよかった。

久留里線沿線にはギスギスした廃線反対期成同盟の砦も見えず、直ちに線路撤去という雰囲気も見られなかったのでもっとホッとしました。私がホッとしても別にどうと言うことはないのですが、突然、そういえば千葉にもう1本廃線になりそうな路線があったと思い出しました。私鉄の小湊鉄道と、いすみ鉄道です。小湊鉄道は、やり手社長のアイディアが功を奏して黒字経営ですが、いすみ鉄道は昨年の脱線事故で運行中止。2027年ころには動かせるかどうかという予想でした。いすみ鉄道が心配です。とりあえずこちらにも調査が必要だと決めました。



秋の気配がまったく感じられない9月中旬、東京駅9時発、蘇我駅乗り換えで木更津駅から東京寄りの五井駅で下車しました。小湊鉄道とは初対面です。旧国鉄から払い下げられた気動車（ディーゼルカー）が五井駅と上総中野駅間の40キロを走っています。しかし、五井駅乗り換えが面倒。ICカードが使えないのでまずJR分を精算し、次に宝くじ売り場のような小屋の窓口でちょこんと座っているおばあちゃん駅員さんから紙の切符（硬券ではありません）を購入。JR2倍強の運賃です。まあ、やむを得ないでしょうね。

ホームにはすでに気動車が1輛、低周波エンジンの音を流していました。観察しているとロングシートがちょうどまるくらいの乗客で、若いカップルやハイキングスタイルのおばさんグループが目立ちます。

多分観光名所の養老溪谷に行くのでしょうか。鉄ちゃんの騒々しさはないのですが車内がやたら暑い。見上げると天井には7台の扇風機が回っていることに気づきました。冷房が無い！ 誰もが窓を開け始めました。シート真ん中あたりの床に箱が置かれて貼り紙、「保冷剤が必要な方はお使いください。終わったら反対シート下の籠に入れてください」。ええーっ！ 何が入っているのか？ しかし、ふたが開きません。他の人も一応確かめていました。窓を開ければ確かに風は入る、しかし軽油の香りとエンジンの熱風も入る。まあ、やむを得ないでしょうね。



やはり、養老溪谷で殆どの乗客が降りました。小湊鉄道は滝や洞窟も多い小櫃川・養老溪谷、そして最近話題の先史時代の地層チバニアンという自然からの贈り物を巧みに生かしています。さらに涼しい夕方にはビール飲み放題列車も走らせ、くそ暑い真昼には冷房を我慢させる経費節約スパルタ的経営が効いているのでしょうね。小湊鉄道の経営は順調です。



終点の上総中野駅まで行ったのは、私と他に3名ぐらいだったか。 ▲上総中野駅（小湊/いすみ鉄道）昨年脱線するまではここから観光名所大多喜を通して外房の大原に向かういすみ鉄道が運行されていましたが、今は代行バスが走っています。駅前周辺は久留里線の上総亀山に比べると整備されていて100メートル先に蕎麦屋の看板を見つけました。2時間間隔の大原行バスが来るまで昼飯です。蕎麦付角煮丼定食1,100円。角煮とあったのでカツオかなと思っていたら甘辛の分厚く柔らかい豚肉がご飯を覆い、蕎麦も絶品。大当たり。亀山の恨みを中野でとりかえしました。

走り出したバス、運転士さんの真後ろで前と外を見ているしかありません。電車（気動車です）が走っていないいすみ鉄道の線路に沿ったり、離れたり。跨いだり。茶色く錆びた細いレールとひび割れたような木製枕木がバスの中からでもよく分かります。“ここに電車を走らせたらすぐに脱線するよなあ”と独り言ちました。

房総半島の中央部から太平洋側の大原に向かって、バスはひたすら人気、車っ気のない道を下っていきます。城下町だった大多喜を過ぎると目を楽しませるものは見つからず、房総住まいの方には悪いけど黄金色の稲穂を除くとやはり風情がありません。大多喜には復元された城郭（現在は入れないらしい）や駅前には天然ガスを湧出したころの資料を集めた小さな博物館があるのですが、ここで下車すると次のバスまで2時間待ち。ショートステイで出発しました。

スーパーらしき店の前でバスが停車。3人の中年女性がそろって乗ってきました。上総中野を出て初めての乗客です。3人そろって小柄な方たちでした。ところがステップに上がった最初の女性が、料金をいれると、子供のような高く大きな声で“わたくしは、〇〇△といいます。運転手さんあなたのお名前は？”。

後ろの付き添い？指導の先生？ が、“いいから早く行きなさい”と叱るのではなく行動を促しました。ところが運転士さん、びっくりしたのか、それともこの乗客のくせを経験していて対応の仕方を教えられていたのかわかりませんが、“私は□□ですよ”と答えました。自己紹介を要求した女性はこれまた大きな声で“ありがとう”と言うと運転士さん真後ろに座っていた私に視線を向けました。

“やばっ！” 0.6秒で返事を考えましたが、後ろの付き添いの方？指導の先生？が 彼女をシートの方へとそっと押していきました。

大原につく前に3人の女性はそろって下車しました。大多喜あたりから目を楽しませてくれるものは見つからなかったのですが、公開自己紹介を求める女性の声と状況を理解して対応した運転士さんとの対話が私を楽しませてくれました。でもとにかくいすみ鉄道の復活が待ち遠しいです。

2025 年 11 月 小林 真人

▲いすみ鉄道大多喜駅といすみ鉄道本社（併設）駅名の命名権を売っていて、「デンタルサポート」という訪問歯科治療サービス会社（？）の名が付いていました。命名効果あるのかなあ？現在、ホームは立ち入り禁止です。でも隙間からちょっと入ってみると、すぐ右手に人間らしきものが座っていました。鎧兜姿のマネキン武将です。名前を忘れましたが大多喜城の城主だったみたいです。夜間一人で対面したら、バケバケです。



## §6 松溪校域散歩：与謝野公園

荻窪三大公園は“荻外荘”、“大田黒公園”、“角川庭園”です。荻窪駅南口から徒歩10分、閑静かなお屋敷町によく手入れされた美しい公園ですが外来者用です。

かつて杉並区は“区民一人あたり公園1坪”を目標に緑地整備計画を進めました。目標が達成されたか定かではありませんが、“与謝野公園”はそんな市民用の公園です。



与謝野鉄幹、晶子夫妻が関東大震災（1923年）で都心から引っ越し以来19年間生活した住居跡です。

ご夫妻のかわいらしい14個の歌碑が中央の小児用砂場や鉄棒を囲む400坪ほどの公園、バス通りからはずれ住宅街の真ん中にポツンとあります。

鉄幹さんは、貴族のたしなみだった詩歌を庶民の趣味へ紹介した先導者、晶子さんは天与の多才、ゆたかな人間性に社会性も備えた近世初の“強い女性”第一号です。でも荻窪住人は晶子さんを桃井第二小学校校歌の作詞者として記憶しています。



与謝野晶子 作詞、山本 直忠 作曲

- (1) 高くそびゆる富士の嶺（ね）は 桃井第二の校庭へ  
学びの心澄み入れと 朝々清き気をおくる
- (2) 都の西の荻窪は 草木茂り鳥歌い  
小川の流れさわやかに 自然の匂い豊かなり
- (3) かく誇るべき学校の 師の導きにしたがいて  
いや栄えゆく日の本の 我等は光る民たらん

日本では初の女性総理大臣が誕生し“強い女性”が話題です。“強さ”の定義が必要ですが、“勇気”の意味とすれば、晶子さんの強さは半端ではありません。1904年日露戦争で陸軍の旅順攻撃隊に従軍した実弟を心配した“君死にたまふことなかれ”での嫌戦の主張は強烈です。

旅順口包囲軍の中に在る弟を歎きて、（第4節）

君死にたまふことなかれ、  
すめらみことは、戦ひに  
おほみづからは出でまされ、  
かたみに人の血を流し、  
獣(けもの)の道に死ねよとは、  
死ぬるを人のほまれとは、  
大みこゝろの深ければ  
もとよりいかで思(おぼ)されむ。



司馬遼太郎“坂の上の雲”によれば、日本海軍は近づく日本海海戦勝利のために、欧州から遠征中のロシア海軍主力のバルチック艦隊が日本近海に到着する前に、旅順港にたてこもるロシア極東艦隊を殲滅せねばなりません。そのため陸軍は旅順港を見下ろす203高地の奪取を計り、同地への肉弾攻撃を繰り返しますが、地形上の不利により多大な死傷者だし続けました。後の太平洋戦争末期の特攻のような戦法です。晶子さんの実弟が包囲軍に従軍していたのです。（実弟は戦闘には参加せず無事帰還）。

戦争はいつも権力者の他国征服願望によりおこされます。犠牲者は徴集兵と一般市民です。

## §7 閑話休題：もっと日本語を大切に



“大熱狗” これわかりますか。ホットドッグ。カタカナのない中国人の発明、英語から漢字へ上手な意識です。

日本では、こんな新漢字を作ろうとする人はほとんどいなくなりました。新しい外来語（主に英語）に出会うと、なにも考えず音だけ直輸入してカタカナ表記してしまいます。その一部は独自進化して醜悪な和製英語になります。数十年後の日本語はどんな形になるのか、国粋主義者ではありませんが心配です。

明治の文明開化期に外国語の大侵入がありました。

当時の日本知識層、海外文化の先達者（福沢諭吉、西周、森鷗外など）たち懸命に固有の漢字を使って新しい漢字（句）を創作しました。その一部は漢字母国の中国でも採用されました。そんな創作意欲は最早日本人にないようです。

言葉は一人一人の自然な日常使用により新しく形成されてゆきます。数千年かけて先人が築いてきた日本文化を後世につなぐには、基礎である日本言語を正しく承継しなければなりません。

何をすべきか？ 難問ですが単純に考えて、

- (1) 英和辞典をよく読んで外国語の原義を正しく知る、そして
- (2) 自分の日本語語彙のなかで表現するとしたらどんな日本語となるか自分なりに考える。よい日本語が見つかったら実際に使う。

同窓会は通信に電子メールを利用しています。ご質問ご要望など下記同窓会メールアドレスへお名前、卒業年度、メールアドレスをご連絡下さい。世話人会保持の同窓生連絡リストに登録し、“同窓会ニュース”や“松溪だより”を定期配信します。

松溪中同窓会ウェブサイトでは総ての同窓会情報を掲載しています。スマホでも閲覧できます。ぜひご覧下さい。

松溪中同窓会ウェブサイト “<https://www.showkeidousoukai.org>”

同窓会メール [taikiaratani@yahoo.co.jp](mailto:taikiaratani@yahoo.co.jp) 又は <sup>ミ</sup>ニ世話人会 [kenricola@nifty.com](mailto:kenricola@nifty.com) (9期小林)

杉並区立松溪中学校同窓会